

しみずの教育 ちよっといい話

【平成29年12月号】

清水小学校

校長 山下 勇

北海道食育推進優良活動表彰を受賞

今年度、第4回北海道食育推進優良活動表彰に応募したところ、本町及び本校で取り組んでいる「食育活動」が高く評価され受賞することになりました。

本校では本町で推進している「しみず教育の四季」を基調とし、学校経営の一つの柱である「健やかな体」の育成の中で「食育」に取り組んでいます。具体的な活動としては、①食育運動「大豆100粒運動」と連動させた「食に関する指導計画」の推進・継続の取組 ②給食指導と食に関する指導を連携させた活動内容の質的充実・向上の取組等を実践しています。

【今年度のこれまでの取組・これからの取組】

4年生～大豆の栽培と「きなこづくり」に取り組みました。5年生～シェフの指導のもと、大豆を使ったメニューの調理実習を行いました。6年生～大豆を使った給食メニューを考案し給食センターに提案します。それを受け、3学期の給食メニューとして給食センターから町内小・中学生に提供される予定です。



【5年生「シェフから学ぼう」
～大豆を使った料理】

5年生が幼稚園・保育所の年長児と交流 ～幼保・小連携事業～

11月30日（木）に、清水小学校に幼稚園・保育所の年長児を招いて、交流を行いました。年長児に楽しんでもらえるよう「お化け迷路」「迷路」「工作」の3つのコーナーを準備して実施しました。子どもたちは年長児の目線に立って、優しく声をかけたり、飽



【しっかりと話を聞く年長児】

きさせないように絵本を読んだり、一緒に遊んであげたりするなど、意欲的に考え行動していました。その姿はとても頼もしく、来年度最高学年として活躍してくれることを期待させるものでした。



【工作に取り組む年長児】

2学期の子どもたちの成長を参観していただきました

12月5日(火)、6日(水)、7日(木)の3日間、参観日があり、多くの保護者の皆様や幼稚園・保育所の方々に、子どもたちの学ぶ姿や先生方の指導の様子、学年・学級の様子等を参観いただきました。きっと、子どもたちの成長の姿を実感していただけたと思います。また、その後の懇談会では、各学級担任・担当教諭から今学期の子どもたちの姿を通して、具体的な成果(成長や変容、努力したことなど)や今後の課題(未定着なことや改善することなど)などについて説明するとともに、情報交流や情報提供を行いました。教師と保護者が情報を共有することができ、信頼関係を深めることができたと思います。いつも積極的に学校まで足を運んでいただいております保護者の皆様に感謝いたします。日常的な保護者の協力体制が、教職員の職務への意欲につながり、子どもたちの成長に大きく影響しているものと思います。

にこにこハッピーまつり大盛況

2年生が企画し、一年生を招待して行われた「にこにこハッピーまつり」。ボーリングや的当て、UFOフリスビーなど色々な店を出して1年生を楽しませていました。どの店も大盛況でした。2年生の子どもたちは、1年生にルールを分かりやすく丁寧に説明したり、上手くてきたら褒めたり、上手いかなかったらアドバイスし



【うまくできるかな?】

たりしながら、楽しくまつりに参加できるように配慮していました。子どもたちの優しさや思いやりの気持ちが伝わってきました。おかげで、1年生の子どもたちは楽しい思い出をたくさんつくることができ、笑顔一杯、大満足の様子でした。一層、1年生と2年生が仲良くなりました。2年生の企画力や説明力、対応力が素晴らしかったです。



【どの景品にしようかな?】

御影小学校

みんなの心を一つにして頑張った!

校長 真下 正 則

今年も残すところ1ヶ月を切りました。そして、長い2学期ですが、ゴールが見えてきました。

さて、11月11日(土)に行った第101回目の学習発表会ですが、阿部町長様を始め、ご来賓の皆様、たくさんの保護者・地域の皆様に、子どもたち一人一人が一生懸命発表する姿を観ていただくことができました。子どもたちの感想の中には、家に帰ってから「頑張ったね」「良かったよ」「上手だったね」「す



【学習発表会より(6年演劇)】

ごいね」「感動したよ」等と言ってもらったというのがあります。そんな言葉掛けが子どもたちの励みとなり、その後の活動につながっていくものと感じます。

今後も、学校・家庭・地域がしっかりと連携し、子どもたちを生き生きと健やかに育てていきたいと考えます。どうぞ、よろしくお願いいたします。



【学習発表会より（3年器楽演奏）】

ところで、12月は2学期のまとめの学習が多くなります。今年学んだことは、今年のうちにとしっかりと身に付けておくことができるように、復習にも力を入れることが大切です。

また、今シーズンの本格的なスケートシーズンに向けて、11月22日（水）にスケートリンク造成会総会が行われました。今回も授業で使用するリンクの造成に関わって、関係の皆様には大変お世話になります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

大先輩からパネルを寄贈していただきました！

10月27日に、本校第48回卒業生（昭和39年卒）の木村良雄さんが来校され、空撮した校舎写真の大きなパネル（縦1m横1.5m）を寄贈してくださいました。

木村さんは、約50年前に御影小学校卒業したことになりますが、中学校を卒業後に御影を離れられたそうです。今回、懐かしい母校のために何かできることはないかと考え、パネルを作製してくださいました。職員室前の廊下に掲示しておりますので、ぜひご覧ください。

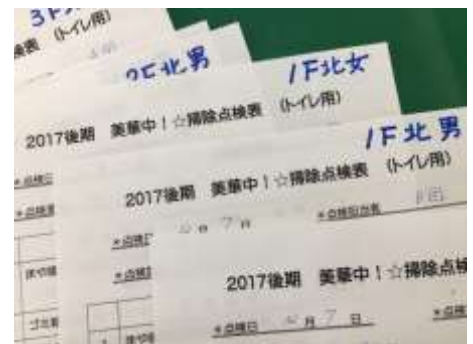


清水中学校

平成27年（2015年）に大規模改修がおこなわれた清水中校舎。当時の生徒会は「美しいまま、大切に使いましょう」と声かけをしてくれました。その言葉どおり、本校生徒は熱心に清掃活動に取り組み、美しい校舎を維持してくれています。来校される方たちは皆口をそろえて「きれいな学校ですね」とほめてくださいます。36年前に建てられたことをお知らせすると驚かれます。

そんな美しい校舎の維持に力を発揮しているのが生徒会の保健美化委員会。学級花壇の活動を進めてくれたり、清掃管理をしてくれたり、自ら進んで美化に取り組むことはもちろん、生徒に熱心に呼びかけてくれています。

校長 宝 輪 博 継





先週は「美華中！」という清掃点検週間に取り組んでくれました。清掃活動後「床にごみは落ちていないか」「窓のさんはきれいか」「棚にゴミやホコリはないか」など、区域ごと10項目の点検活動をしました。

今回10点満点のゴールド金賞に輝いたのは3A担当の「2

階廊下&手洗い場」。さすがに3年生です。



御影中学校

希望する進路の実現に向けて

校長 寺島 康博

11月22日(水)、清水小学校、清水中学校、清水高校(清水中学校が主会場)を会場に、十勝管内進路指導研究大会が開催されました。

この研究大会に参加して、教師として子どもたちの進路指導・キャリア教育に向けて、どう接し、どう指導していくことが大切なのか、たくさんのことを学ぶことができました。

その一つは、私達教師や保護者が子どもたちには将来進むことができる様々な道があることを認識し、子どもたちにできる限り紹介し、選択する幅を広げられるように努力することが大切であるということです。子どもたちの視野はあまり広くはありません。ですから、常に周りの大人は、社会にある様々な職業について、子どもたちと会話をもつ工夫をしなければなりません。そして、子どもの興味、関心がどこにあるのか、また、どんな適性があるのか等を子どもたちと一緒に考える機会が大切です。

二つ目は、希望とする進路に進むために必要な力は何かを子どもたちと共に考え、子どもたちの今の課題は何なのかを確認し合うことが大切であるということです。学習面、生活面、体力や健康面、それぞれの現状はどうか、教師や保護者がしっかり把握し子ども自身が認識し、改善しようとするように工夫しなければなりません。

中学生段階で将来の職業を選択し、目標を定めることはなかなか難しいことです。しかし、イメージを広げ、実現のために必要なことを意識することはとても大切だと思います。学校と家庭が同じ考えで子どもたちへの進路指導を行い、子どもたちが希望する道に進み、将来大きく社会貢献できる人に育てていきたいと思っています。



かべ新聞コンクール十勝大会表彰式

12月3日(日)、かべ新聞コンクールの表彰式がありました。1年生は銀賞、2年生と3年生がそれぞれ銅賞を受賞しました。

来賓の講評の中で「作成の際にきっと、悩んで、チームでもめてなかなかうまく進まなかったり、苦労した面もあると思います。」「しかし、その苦労した分いいものが出来上がった時の感動やこの表彰式で味わう緊張感は受賞した人にしか味わうことができない素晴らしい体験です」とお話されていました。まさに今の子どもたちの思いにぴったりあった講評でした。



清水高等学校

校長 平野道雄

「清水高校の総合学科を語る集い」が開催されました！

12月2日(土)、本校振興会と清水高校の主催による「清水高校の総合学科を語る集い」が清水町文化センターで開催されました。本校の特色である総合学科の学習内容や今後の進む道などについて、地域の方々により深く知っていただきながら意見交換することなどを目的に、有識者の講演等を行ってきたものです。

阿部町長、梶振興会長をはじめ約70名が参加する中、本校3年次生の三田千尋さんの落ち着いた全体進行、大久保珠美さんと小泉憂佳さんによる立派な発表に、大きな賞賛の声が寄せられたほか、今年度工夫した大きな3点について次のような成果を得ることができました。

- ・清水町以外の方々にも参加を呼びかけたこと
→本校は清水町にある道立高校として、町民の方々から多大な協力や支援をいただいております。しかしながら、4学級を維持するためには、近隣市町の中学生に本校を選んでもらわなければなりません。そのため、新得町や芽室町、帯広市の教育関係者等などにも案内したところ、町外の方も含めて約70名の参加を得ることができました。
- ・本校卒業生によるパネルディスカッションを行ったこと
→「学校の真価は卒業後に表れる」といわれることがあります。特に総合学科である本校は、進路目標を定めてそれに向かう力と同時に、卒業後の人生をしっかりと自分で歩いていく力を身に付けることが期待されており、本校の卒業生がどのように感じているか興味深いところでした。コーディネーターの齊木良博氏の時折ユーモアを交えた軽快な進行の中で、卒業生からは本校の教育活動に一定の評価をいただいた一方で、今後の改善に向けた貴重な意見も聞くことができました。

- 系列ごとに座談会を行ったこと

→参加された方々が意見を出しやすいよう、興味のある、あるいは関係の深い系列ごとに分かれ、少人数での座談会を行いました。当初は人数のバランスが心配されましたが、参加の皆さんのお気遣いのおかげもあり、各系列 10 名程度で時間が足りなくなるほど活発な意見交換が行われました。地域の方が本校をどう見ているのか、生の声を直接聞くことができました。

現在、座談会で出された意見やアンケートの記載などを集約中ですが、所期の目的はおおむね達成されたと考えております。次年度も、清水高校振興会と相談しながら、さらに有意義な「語る集い」になればと考えておりますので、参加された皆さんにこの場を借りてお礼申し上げるとともに、今後とも清水高校をよろしく願いいたします。



【スライドを使った立派な発表】



【6人の卒業生によるパネルディスカッション】



【落ち着いた全体進行】

本校生徒が参画したバス停がついに完成！

町内の建設業者と町教委との連携の中で進められ、本校も参画させていただいた、高速バスの停車所に雨雪よけを作る「バス停プロジェクト」がついに完結しました。

町内外出身が共に学ぶ生産技術系列の3年次生は、このプロジェクトにおいて、設計段階で鈴木智也君（芽室西中出身）と吉田歩夢君（帯広緑園中出身）の案が取り入れられたほか、作業段階でも定期考査が終了した後の放課後を使って全員でお手伝いするなど、関係の皆さまにご指導をいただきながら取り組んできました。11月24日（金）のオープニングセレモニーの様子は、先日のテレビのニュースでも大きく取り上げられたところです。

地域の学校としてこうしたプロジェクトに参加することは、町内外の出身にかかわらず、社会に参画し地域に貢献する意識を高める重要な機会と考えます。本校の生徒に貴重な機会をいただき、多くのことを学ばせていただいたことに感謝いたします。



【作業を手伝う様子】



【完成したバス停車場】



【町長と並んで本校生徒もテープカット】

第40回発表会が終わりました

11月12日(日)に発表会を開催しました。多くの保護者の皆様やおじいちゃん、おばあちゃんにいらしていただきました。子どもたちは緊張した面持ちでしたが、家族の皆様の声援もいただき一生懸命に練習の成果を披露しました。年長さんは鍵盤ハーモニカの指使いに苦労していたのですが、当日はとても上手に演奏ができていました。ご家族の励ましと子ども自身の頑張りでもた

一つ成長したように思います。

子どもたちに感想を聞くと、「上手だったよ」「頑張ったね」「楽しかったよ」などの家族の言葉が一番うれしかったようです。



年長児 ばら組



年中児 さくら組

異年齢活動・・・グループごとに昼食会も！

春からいろいろな場面で年齢に合わせた交流を図ってきました。秋を迎え本格的な異年齢交流として「お店屋さんごっこ」に取り組みました。

3グループに分かれ、いろいろなお店屋さんや運動遊びの2種類を考え開店に向け、名前や取り組みもみんな工夫しました。

○ちゅうりっぷおかしのおいえグループは

“おかしのおいえ”と“たのしいトランポリン”

○おはなグループは

“やさいやさん”と“どらいぶやさん”

○ほしにじグループ

“アクセサリーやさん”と“とびとびやさん”

仲良しになったお兄さんやお姉さんと一緒に、異年齢活動後に、各グループで給食を一緒に食べる「昼食会」をしました。各学級で何度か実施するうちに、年長さんもすっかり自信がついたらしく年少さんを上手にリードしてくれていました。

クリスマス会での全園児での昼食会が楽しみです。



しみず「教育の四季」子どもフォーラム

まちの将来像について考える

11月28日(火)、清水町文化センターで第11回しみず「教育の四季」子どもフォーラムを開催しました。

町内の小・中・高5校の児童会・生徒会役員、教職員、PTA役員、行政、町民など約80名が参加しました。

各学校の児童会・生徒会が、しみず「教育の四季」の取組を発表し、その後、清水高校生徒会長相澤春花さんの司会で「清水町の将来像を考える」をテーマに意見交流を行いました。

その中で、「清水町は自然が豊かで住みやすい」「町民のつながりが深い」「子育て支援が充実している」等々たくさんの良いところが出されました。一方「少子高齢化」や「人口減による公共施設の維持」、「雇用」等、将来心配されることについての意見もありました。

将来の求める清水町のイメージとして、「明るくて、温かくて、みんなが笑顔のまち」「公共交通機関、子育て支援、高齢者支援が充実し、不便がないまち」「豊かな自然があり、町民のつながりがあるまち」「年齢に関係なく意思疎通ができ、何があっても協力し合えるまち」「全国各地からいろんな人が来てくれるまち」等が出されました。

意見交流を通し、相澤さんは「私たちの意識が清水町の将来につながるような場をつくってもらえるとよりよい町になっていくのではないか」とまとめました。

今後もこの「子どもフォーラム」を通し、様々なテーマについて町民とともに交流を深めて参りたいと考えています。



(教育指導幹 清水彦一)

Eメール：sidoukan@town.shimizu.hokkaido.jp



しみず教育の四季

家庭・学校・地域が連携して町民総ぐるみで「12の窓」から
感性あふれ、表情豊かな子を育てる

冬～厳しさに生きる人の中で きたえ磨く

家庭・学校・地域
今月の取組
家庭は、みんな揃って
楽しい団らん
地域は、向こう三軒
みんな家族